

へ13
2932
2

方
月
人
百
文
字
等
日
一
月
二
日
三
日
四
日
五
日
六
日
七
日
八
日
九
日
十
日
十一
日
十二
日
十三
日
十四
日
十五
日
十六
日
十七
日
十八
日
十九
日
二十
日
二十一
日
二十二
日
二十三
日
二十四
日
二十五
日
二十六
日
二十七
日
二十八
日
二十九
日
三十
日

天羽衣下

泉本藤

殘跡庵
藏書印

利本惣
岩附町
四番地



三保が家と日こは首は増つてせんか
大まある家よ三人のとあめり
のさとりと成て屋根を破き柱を傾
たうく生ひまぐつてせむぢう
宿報のつゝあま事よ親子さ
のまあまをうかろよやいつ
入つてちのしは賢がよもて

天の国

石子掘あて。鍬のさきよりの穴ぬけ何あつんとて。從掘りて
見るふ。びくちある。石あり。何の料よ。かる物を土の下子埋め
あつらふ。と思ひて土をかきよけて見せざ。其墓盤の形せる
石あり。母逆より見て。あな思わざ。む。いざ。いざ。父君のと。頃
其宗子の位を。さして弄び。ひくる。が。唐国人の石墓盤と
し。ふを。う。して。石工よ。つ。けて。作らせ。め。り。け。あ。る。
め。さ。げ。る。一。年。た。つ。つ。て。見。え。さ。う。い。が。あ。ら。ん。な。ま。さ。う
せ。ざ。り。家。の。埋。を。置。め。る。ふ。こ。ろ。い。ら。ふ。白。良。父。の。位。か。つ。み。を。
土中よ。あ。へ。し。ま。い。あ。ら。び。さ。う。て。久。を。呼。て。け。石。墓。盤。を。と。り

のけて見せざ。下子たきある。墓あり。其墓盤のう。母。文字見
ゆ。見。ざ。土。を。さ。う。ひ。て。よ。み。や。ま。い。だ。父。の。名。を。ま。さ。う。て。遺。金
一萬兩と。さ。う。い。あ。の。墓。の中。の。手。を。や。り。て。さ。う。ま。い。だ。さ。う。い。く
金あり。あ。ま。りの。事。よ。あ。ま。さ。て。母。も。白。良。も。あ。り。あ。ま。堅。く
目を見。あ。た。ま。久。を。あ。げ。て。さ。き。さ。う。い。父。君。の。遺。物。を。ま。
あ。ま。さ。か。あ。ら。ん。も。さ。う。い。つ。せ。の。う。あ。と。天。を。拜。し。て。あ。ら。ぶ。
母も白良も。手。の。舞。足。の。踏。あ。を。お。ろ。え。ざ。け。金。と。り。出。く。
か。さ。ら。ぐ。持。運。び。て。家。よ。を。さ。め。り。さ。て。破。さ。し。る。家。を。修。理。
め。し。つ。ら。ひ。あ。ら。び。再。び。か。え。く。昔。の。業。を。し。と。あ。ら。ん。久。い。ひ。ま。さ。う

天の月二のり



父の遺金掘出す

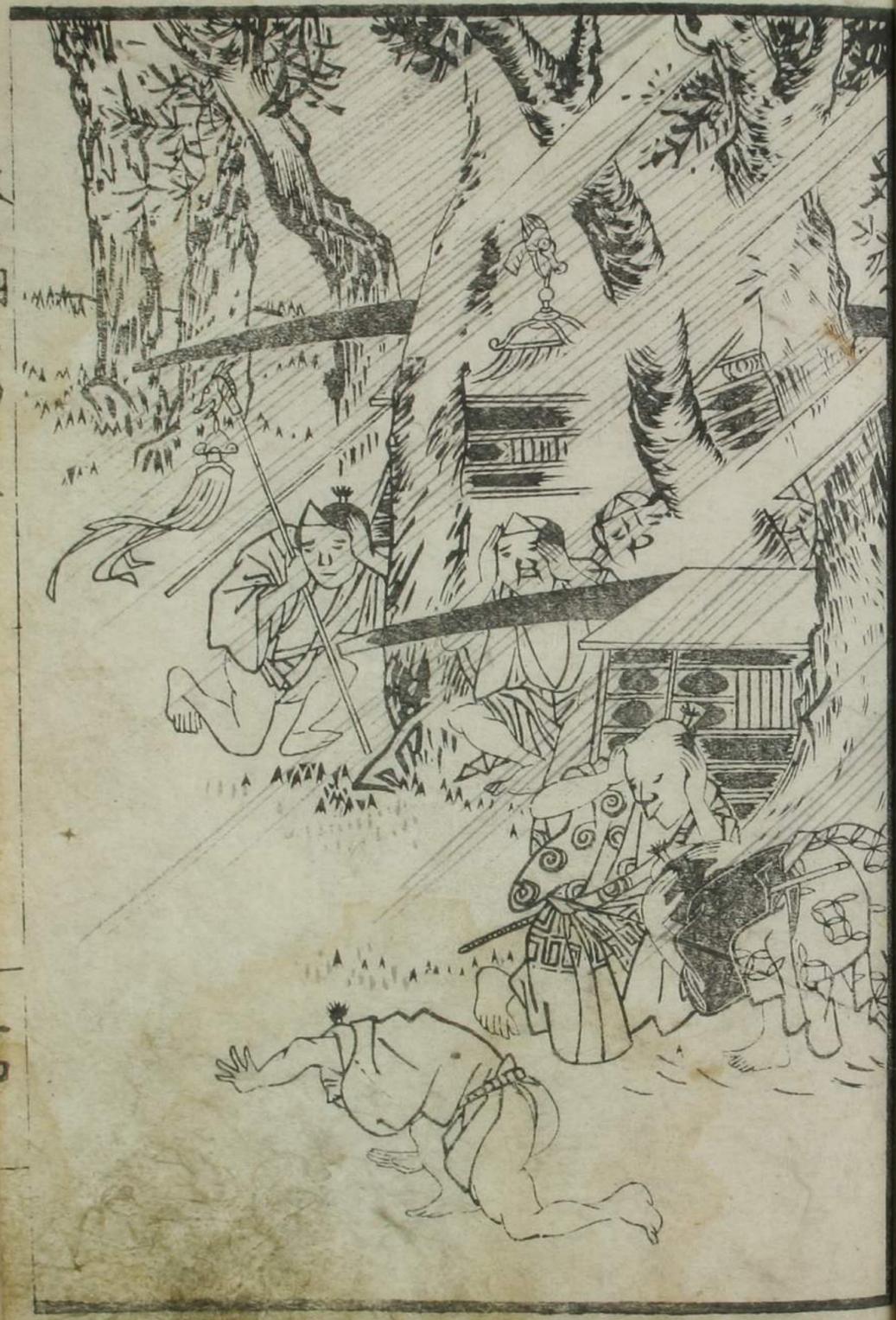
天の国に...



天の国に...



あくとらう
 悪毒を
 女のとの
 娘の園
 忍び入り
 かきめ
 らう



天の目



天の目

おんいんせ
咄の借のみの
あをさけて森入りて
あまき
あを
おま
おま

落ちたるさゆあきざい。おろきまて。逃まらざる。泣きふく。びん林
み入り。雪を早まきまあり。さても。姫の君を。代物の
見し。まて。取つて。ゆあ。ん。と。ひ。ひ。色を。土の。おと。く。あ。く。
いふ。から。よ。人。あ。あ。中門。よ。入。ま。く。こ。ま。く。と。即。佛。尼。が。親
族の。者。ども。あり。ま。よ。の。野。邊。送。り。さ。る。道。み。く。雨。よ。あ。ひ。く。
志。む。か。この。森。の。中。よ。入。る。あ。り。あ。る。や。ま。光。り。の。警。ま。て。
逃。ま。ら。ず。あ。く。び。く。も。なり。見。る。あ。き。ざ。い。尼。が。死。骸。を。入。身。
し。る。衆。物。見。え。ざ。い。か。く。り。も。人。も。毎。あ。ら。ぬ。う。つ。も。ま。ま。磨。ら。す
捨。て。あり。さ。て。ま。く。う。う。が。り。あ。く。衆。物。を。と。り。た。ぶ。ら。ま。し。し。

おろきまて。逃まらざる。泣きふく。びん林
み入り。雪を早まきまあり。さても。姫の君を。代物の
見し。まて。取つて。ゆあ。ん。と。ひ。ひ。色を。土の。おと。く。あ。く。
いふ。から。よ。人。あ。あ。中門。よ。入。ま。く。こ。ま。く。と。即。佛。尼。が。親
族の。者。ども。あり。ま。よ。の。野。邊。送。り。さ。る。道。み。く。雨。よ。あ。ひ。く。
志。む。か。この。森。の。中。よ。入。る。あ。り。あ。る。や。ま。光。り。の。警。ま。て。
逃。ま。ら。ず。あ。く。び。く。も。なり。見。る。あ。き。ざ。い。尼。が。死。骸。を。入。身。
し。る。衆。物。見。え。ざ。い。か。く。り。も。人。も。毎。あ。ら。ぬ。う。つ。も。ま。ま。磨。ら。す
捨。て。あり。さ。て。ま。く。う。う。が。り。あ。く。衆。物。を。と。り。た。ぶ。ら。ま。し。し。

六の四



志^しの^の長^{ちやう}者^{ぢや}姫^{ひめ}の^の一^{いち}を^を
 あ^あけ^けて^て見^みき^きか^か尼^にの^の瓦^わ散^{さん}
 阿^ある^るを^を足^あて^て敬^{かう}ろ^ろく^く阿^あ

天の宮の二

かくも我々も。むくやま。別人子縁をのめて。夫と
 志のつとむ。小松まらび出。白良が母の袖にまがうて。い
 づら。雲井がやせ。あまのぢ。我身一まら。道をさす
 て。くま。父母の仰せをさむ。昔の誓う。た
 だ。この思ひ。今白良。あまを
 まら。の。せんか。け。母君の。か
 子置。あま。つ。を。あ
 け。家子。あま。の。あ
 け。涙を。母。小松。顔。あ。

かくも我々も。むくやま。別人子縁をのめて。夫と
 志のつとむ。小松まらび出。白良が母の袖にまがうて。い
 づら。雲井がやせ。あまのぢ。我身一まら。道をさす
 て。くま。父母の仰せをさむ。昔の誓う。た
 だ。この思ひ。今白良。あまを
 まら。の。せんか。け。母君の。か
 子置。あま。つ。を。あ
 け。家子。あま。の。あ
 け。涙を。母。小松。顔。あ。

天の羽衣の巻

志をえんあくもあえね
下女雲井三保の浦を

白良子あは小松を

天女と現げ羽衣を

うけとら

別きて天母

のぢふ



江南目録後画

天の羽衣の巻

十七

手をあきせし。ふーまうびくはぬ。白良心肝子錦じて尊く
おるえさかの羽衣を取つて。さげなる天女右の左手をのび
て。あまをとりゆひ行さるあがく守護しつて。この結ぶ
夢ら天樂よままはまはま。けり重漸しよ立のびると見えさうが
あしたう山や富士の高嶺の霞みかへまへ見をまてありぬ
くはあまあまうびふーをぶと。海おとて手ひまあひつ
宿つとを帰りたる。あまより小松母の孝養する事おろり
あまが白良を敬ふあまも大方あまが常より三人天女を
仰ぎて天女の徳をらひ生きたるを拜くるとあん。

○あまのこ

思良親子を獄屋のとうをまてありて。こびまわを見て
百日あまうびく。あまが思ひくる。我く三保が思ひま
盟約をさく破りて不信不義をふるまつるを天の思ませぬ
あやあまうんと親子頭をよせ。叫あひくる。その夜磯田が
子見たるやうあまのあまうびく。あまの思ませぬ。あまの
あま磯田のあまうびく。あまの思ませぬ。あまの思ませぬ
地さうさう。あまの思ませぬ。あまの思ませぬ。あまの思ませぬ
不思議と思ひて見ませぬ。あまの思ませぬ。あまの思ませぬ

よまふたうひてん。と云く。財を口うちあへてやうび
 のこの為うよ。いゝあをさせつ。黒良今も白良が恩骨の
 あへん。うきかひをばさ。あまより別意あへかへん
 よろづ白良が指揮を受けてまゆまゆつらうる。後田夫婦を
 白良が庭の内より別子菴つらうてまはせし。跡意あへ養ひ
 々々。夫婦も感涙をあらう。さてあん専修の念佛者
 とあり。世をさへう。くも年ごろ忠をつくせる者あり
 や。今も家のあつらひをも。あまはさへ。うつらき。家造り
 まはせし。こゝろあへつらまはせ。たのしく。老を養をせける

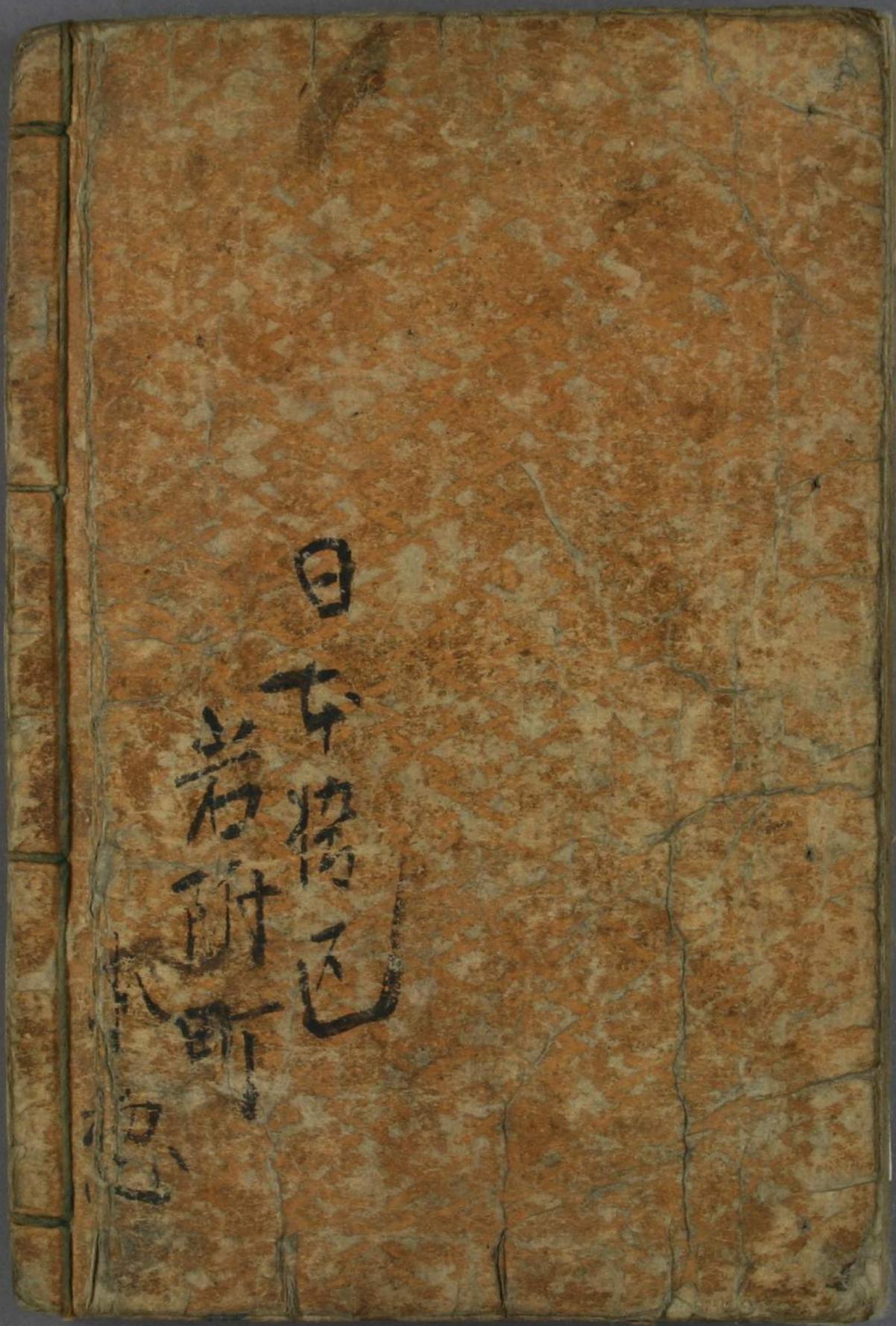
三保が家や。海道第一の富家とあり。子孫安樂子孫えらる
 とぞ。あまはさ。三保長者が陰徳の報。白良が信義の公。
 小松が貞操のさる。あまはさ。ひとより天人の加護。よあねりと
 語のほへんとあへん。



天羽衣下終

Handwritten text in a cursive script, likely a form of shorthand or a specific dialect. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines across the page. The script is dense and fluid, with many loops and flourishes. There are several small annotations or corrections written above or below the main lines of text, often enclosed in small circles or squares. The paper shows signs of age, including yellowing and some water damage or staining, particularly in the center and right-hand side.

Small vertical text or marginalia on the left edge of the page, possibly a page number or a reference mark.



日本植物図

岩田所

徳